



柴 健 次 教 授



清水涼子教授

柴健次先生、清水涼子先生に贈る

柴健次先生が、2024年3月をもって関西大学大学院会計研究科をご退職されることとなりました。また、清水涼子先生は、同年1月をもってご退職されました。これを記念して、研究科教員の総意として『現代社会と会計』第18号を記念号として発刊することになりました。本号には研究科教員以外にも先生方と親交の熱い先生方からの寄稿を受けることができました。記念号を通じておめでたきご退任を心よりお喜び申し上げますとともに、冒頭にあたりごあいさつさせていただきます。

* * *

柴健次教授は、1978年に大阪府立大学経済学部をご卒業になり、1980年3月には神戸商科大学（現兵庫県立大学）大学院で経営学修士の学位を取得後、1982年3月に同博士課程を中退されて、同年4月に大阪府立大学（現大阪公立大学）経済学部に着任されました。その後、同大学経済学部教授を経て、1996年4月に関西大学商学部教授に着任され、2006年4月より大学院会計研究科に移られました。さらに、2021年には名誉教授の称号を受けられ、現在に至ります。

柴先生は、本会計研究科において「会計制度論」、「公会計論」、「貸借対照表論」および「企業マネジメントと会計」などをご担当され、本会計研究科で会計学の理論を重厚な講義をもって学生にご教授してこられました。また、ソリューションと呼ばれる個別演習科目や論文指導においても、勉強熱心な学生が集まり、先生の下で薫陶を受けた多くの学生が社会に羽ばたいています。また、先生は、研究科・大学運営においても多大のご貢献をなされました。会計研究科創設にご尽力いただき、2006年には初代会計研究科長に就任され、本会計研究科の礎を築かれました。現在の会計研究科があるのもひとえに柴先生のおかげといっても過言ではありません。また、大学全体においても2006年からは評議員、2008年からは理事などの役職を多数歴任されました。

先生のご研究は、非常に多くの業績を残され、枚挙にいとまがないほどでございます。強いて以下に若干のご紹介をいたしますが、詳細については本号所収のとおりです。まず、先生は『市場化の会计学——市場経済における制度設計の諸相』（中央経済社）（2002年）で関西大学から商学博士号を受けました。その他、ご著書として、『外貨換算会計

論』（大阪府立大学経済研究叢書第65冊）（1987年）、『自己株式とストックオプションの会計』（新世社）（1999年）など多数出版されました。また、論文についても、とりわけ近年では公会計および会計教育の分野で多くのご執筆をなされ、当該分野の研究に大いに貢献されました。学会活動も活発になされ、簡単なお紹介にとどめますが、国内では、日本会計研究学会、国際会計研究学会、日本経済会計研究学会、日本監査研究学会、日本会計教育学会、政府会計学会、非営利法人研究学会などの学会において、会長や理事職を務めておられます。その他、国や地方公共団体等で、多くの審議会や委員会等の会長および委員をお務めになられ、社会貢献活動にもまた熱心に取り組んでおられました。

柴先生のお人柄は、旺盛な知的好奇心で多くのご趣味をお持ちで、個人的には趣味の面でもお付き合いをさせていただきました。先生はユーモアあふれる豪放磊落な性格でわれわれを寛容に受け止められる半面で、冷静沈着な思考の中でわれわれをいつも正しい方向に導いてくださりました。

清水涼子教授は、1982年に東京大学法学部をご卒業になり、その後公認会計士として会計監査の実務に携われ、2007年4月より関西大学大学院会計研究科教授としてご着任されました。2020年4月には商学部教授を兼任され、2024年1月25日をもってご退職になり、翌1月26日に名誉教授の称号を受けられました。

清水先生は、本会計研究科において「会計専門職業倫理」、「特殊講義（自治体マネジメントと監査）」などをご担当され、いずれも丁寧かつ熱心な授業をなされておりました。特に、「会計専門職業倫理」は、2年生の基本科目として位置づけられ、学生が公認会計士などの会計専門職業人として仕事をするうえで欠かせない重要な科目です。また、清水先生は、商学部との兼任をしておられる関係で、商学部の「清水ゼミ」からは多くの優秀な学生が、清水先生を慕って本会計研究科にも進学してくれました。先生は会計研究科運営にもご尽力され、特に2014年度からは副研究科長、2022年度からは教学主任を務めていただきました。とりわけ会計研究科が大変厳しい状況で大改革を迫られたことがございましたが、私が研究科長で難しい局面で悩んでいたときに副研究科長としてその手腕を振るわれたことは今でも感謝しております。

先生のご研究は、公監査を中心とされておりますが、そのみならず、広範で多岐に渡り、多くの業績を残されました。主なものとして、ご著書に『会社の「見方」——強い会社のマネジメントを探る』（同文館出版）（2016年）、『地方自治体の監査と内部統制——2020年改正制度の意義と米英との比較』（同文館出版）（2019年）、また、共著でも『標準テキスト 会計専門職の職業倫理』（同文館出版）（2023）、『カジノ・ゲーミング事

業をめぐるガバナンスの研究』(関西大学出版部)(2023年)を執筆されるほか、本号所収のように論文も執筆されました。また、学外では、国や地方公共団体の審議会や委員会の委員を多く務められ、その他、株式会社の社外取締役や監査役も務められるなど、社会に大きく貢献いたしました。

清水先生のお人柄は、温厚でいつも優しい中にも一本の筋が通ったお考えをお持ちになり、様々な局面で先生の適時的確なふるまいから、われわれに範を示してくださいました。

* * *

柴先生、清水先生の超人的なお仕事ぶりに触れるにつれ、先生方のご功勞に敬意を表するとともに、ご退職までの長きにわたり、われわれにご交誼ご指導いただいたことを大変感謝しております。先生方とともに会計研究科で過ごしました日々はかけがえのない思い出でございます。最後になりますが、柴先生、清水先生には、今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、先生方のご健康とさらなるご活躍を祈念し、献呈の辞とさせていただきます。

2024年3月吉日

会計研究科長 三 島 徹 也

